

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

がん診療連携拠点病院におけるがん情報提供・相談支援の実効性解析、
活性化支援人材介入モデルの検討

研究分担者 西山 正彦 群馬大学・名誉教授

8月から研究分担者を藤也寸志より引き継いだ。本分担研究報告書では、藤の8月までの活動報告に加えて、それ以後の西山の活動を報告する。「がんに関する相談支援と情報提供」の推進は重要な課題と認識されながらも、がん相談支援センターの国民への認知は十分には進まず、またその実情は施設間や地域間で大きく異なっている。本研究の目的は、地域の相談支援・情報提供体制を効率化するために不可欠な人材（がん医療ネットワークナビゲーター：がんナビ）の育成を通じて、相談支援・情報提供体制の在り方を考え、療養を含めた地域情報づくりのモデル等を提案することである。本年度は、昨年度までに施行した7都道府県における医療介護など広範囲の従事者に対するがん相談支援・情報提供の実態に関するアンケート調査および聞き取り調査の結果について、詳細な検討および議論を行った。また、癌治療学会によるがんナビの育成に協力し、さらに福岡県におけるがんナビ育成に関する活動を継続した。8月からは交代した新研究代表者による3年の成果の総括や研究成果の冊子化と全国への配布、さらに今後のがん相談支援・情報提供体制の在り方に関する提言の補助を行った。

A．研究目的

- 1) 医療と介護の間、また地域間で異なるがん情報の多様なニーズに適切かつ迅速に対応できる〈地域完結型相談支援・情報提供体制〉の確立を目指す。その前提として必要とされる「がんの相談支援や情報提供に関する地域や施設によって異なるニーズや問題点」を明らかにする。
- 2) 地域の相談支援・情報提供体制とこれを補強する人材養成プログラムを検証し、地域ニーズの抽出に基づく相談支援・情報提供体制の在り方、これを効率化する人材の

育成と介入モデル、療養を含めた地域情報づくりモデル等を提案する。

B．研究方法

- 1) 一昨年度に実施したがん診療連携拠点病院（以下、がん拠点）の相談支援センター/地域統括相談支援センター/医療・ケアネットワーク等を対象としたアンケート調査、さらに昨年度の回答施設へのインタビュー調査の結果を詳細に検討して議論を行った。
- 2) 昨年度に引き続き、がん医療ネットワークナビゲーター（以下、がんナビ）養成プロジェクト（H26-がん政策-一般-007）でモ

デル事業の対象県である福岡県において、養成のためのシステム作りを模索し、さらに養成したがんナビの活躍の場を提供できる体制の構築を推進した。福岡県では特に保険薬局薬剤師を対象として、がんナビの育成を図った。

(倫理面への配慮)

本研究では介入試験は行わないが、モデル事業における評価は疫学研究の対象になると考えられ、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守してこれを行う。

C. 研究結果

1)九州がんセンターで行ったインタビュー調査では、福岡県における医療・介護領域の従事者においては、がんの情報提供や相談支援に関するニーズは広くかつ大きいものの十分な支援が行われていないことが判明した。国のがん施策は、がん患者・家族だけでなく、がん拠点や一部の関連施設以外の医療・介護領域には届いていない実態が明らかであった。

2)福岡県における保険調剤薬局薬剤師を対象にがんナビの周知活動を継続した。その結果、2020年2月現在で、シニアナビ認定済10名、実地見学中または待ちが3名、コミュニケーションスキル研修を終了が31名、ナビ認定済が119名、e-learning受講中が88名と全国で最大の活動拠点となっている。さらに、がんナビの活動を支えるために、福岡県がん拠点が中心となるがん診療連携協議会とその相談支援・情報提供関連の部会での周知と協力依頼を昨年を引き続き行いながら、がん専門相談員の連絡

会にがんナビも参加してもらい両者の交流を続けている。

3)8月以後は、研究分担者である藤の活動を引き継いだ。交代した新研究代表者による3年の成果の総括や研究成果の冊子化と全国への配布、さらに今後のがん相談支援・情報提供体制の在り方に関する提言の補助を行った。

D. 考察

広域にわたる広範囲の医療・介護関連施設へのアンケート調査やインタビュー調査の結果から考察すると、介護関連施設において、医療側からだけでは想像できなかった「がん情報の不足」が明らかになった。がんに関する情報をどのように収集し要介護者達に提供するかについて困窮している問題点が浮上し、がん相談支援センターだけでなく、がんナビ自体を介護福祉関係者や国民へ周知することも必須であることがわかった。

現在のがん拠点における相談支援・情報提供に関わる人員配置の現実、年々高まるニーズに対応するには不十分であり、病院経営の厳しさもあって更なる強化も望めない状況である。このために、市井にあってがん専門相談員へのサポートまたは橋渡しができる人材(がんナビ)の育成が急務であり、この点に本研究の最大の意義がある。各都道府県では、行政の協力やがん拠点のまとめりなどに大きな温度差がある。福岡県では保険調剤薬局薬剤師を中心とした情報提供を行うことで、がんナビ取得を目指す人が爆発的に増加した。彼らのがんナビ認定取得をサポートする体制を構築していく必要がある。

一方で、がんナビが養成された場合には、その活動の質を維持する仕組みが必要であり、それにはがん拠点のがん専門相談員との定期的な交流が必要不可欠である。それは、がんナビの相談相手の確保や実際のがん患者のがん相談支援センターへのアクセスの橋渡しにも必須の要件である。九州がんセンターでは、まずは福岡県での活動拡大を目指しているが、全国のモデルとなるべく福岡県モデル（1つの拠点病院と複数の保険調剤薬局のがんナビからなるグループを最小単位として、県内の全がん拠点での拡大を目指し、将来には全県下での統一した活動を目指すモデル）を提唱した。

E . 結論

本研究の目的を達するためには、まずがんナビを全国へ展開すること、そしてがん拠点との共同体制の確立が必要である。さらには、医療側だけでなく介護側へのがん情報の提供や相談支援は喫緊の課題である現状が浮き彫りになった。

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

I 著書

なし

II 総説

なし

III 原著

1. Hasegawa K, Shimada M, Takeuchi S, Fujiwara H, Imai Y, Iwasa N, Wada S,

Eguchi H, Oishi T, Sugiyama T, Suzuki M, Nishiyama M, Fujiwara K. A phase 2 study of intraperitoneal carboplatin plus intravenous dose-dense paclitaxel in front-line treatment of suboptimal residual ovarian cancer. Br J Cancer. 2020 Jan 31. doi: 10.1038/s41416-020-0734-9. [Epub ahead of print]

2. Hirata K, Imamura M, Fujiwara T, Fukui T, Furukawa T, Gotoh M, Hakamada K, Ishiguro M, Kakeji Y, Konno H, Miyata H, Mori M, Okita K, Sato M, Shibata A, Takemasa I, Unno M, Yokoi K, Nishidate T, Nishiyama M. Current status of site-specific cancer registry system for the clinical researches: aiming for future contribution by the assessment of present medical care. Int J Clin Oncol. 24(9):1161-1168, 2019 .
3. Shimizu K, Goto Y, Kawabata-Iwakawa R, Ohtaki Y, Nakazawa S, Yokobori T, Obayashi K, Kawatani N, Yajima T, Kaira K, Mogi A, Hirato J, Nishiyama M, Shirabe K. Stathmin-1 Is a Useful Diagnostic Marker for High-Grade Lung Neuroendocrine Tumors. Ann Thorac Surg. 108(1):235-243, 2019

症例報告

なし

V 学会発表

1. 西山正彦 . がんトランスレーショナル・リサーチ：新規がん治療開発への挑戦 . 中山恒明賞受賞記念講演 , 第 57 回日本癌治療学会学術集会 , 福岡 , 2019.10.24.
 2. 馬場秀夫、吉田和弘、寺島雅典、Sun Young Rha、Jae Moon Bae、Guoxin Li、安福 至、瀬戸泰之、Sung Hoon Noh、Jiafu Ji、北川雄光、森田智視、西山正彦 : CONVO-GC-1 Study Group:13 Peritoneal metastasis of gastric cancer: Is it feasible for conversion surgery? -Sub-analysis of CONVO-GC-1-. ジョイントシンポジウム 5: FACO/JSCO Joint Symposium , 福岡 , 2019.10.25.
 3. 井本 滋、二村 学、戸井雅和、藤原康弘、上野貴之、Young- Hyuck Im、Seock-Ah Im、Sung Gwe Ahn、Jeong Eon Lee:9、Yeon Hee、北川雄光、西山正彦 : 希少転移乳癌の局所及び全身療法に関する国際共同後向きコホート研究 (OLIGO-BC1)進捗 . ジョイントシンポジウム 5 : FACO/JSCO Joint Symposium . 第 57 回日本癌治療学会学術集会 , 福岡 , 2019.10.25.
 4. 渡邊清高、調 憲、浅尾高行、相羽恵介、佐々木治一郎、藤 也寸志、竹山由子、片渕秀隆、境 健爾、吉田 稔、矢野篤次郎、加藤雅志、富田尚裕、西山正彦 : 地域における患者支援ニーズの分析～がん医療ネットワークナビゲーターの役割の検討 . 第 57 回日本癌治療学会学術集会 , 福岡 , 2019.10.26.
 5. Hasegawa K, Taniguchi K, Sato S, Yoshinaga A, Tsugane M, Nishiyama M, Fujiwara K. Ex vivo cytotoxicity and in vivo antitumor activity of a novel highly selective STAT3 inhibitor YH0-1701 for ovarian and endometrial cancer. ESMO CONGRESS 2019, Barcelona, Spain, 2019.9.29.
 6. 吉田和弘、北川雄光、井本滋、古瀬純司、馬場秀夫、西山正彦 : がん臨床研究のアジアへの展開 . 特別企画 3 がん医療・がん研究の国際展開 , 第 78 回日本癌学会学術総会 , 京都 , 2019.9.26.
 7. 井本 滋、二村 学、戸井雅和、藤原康弘、吉田和弘、北川雄光、西山正彦、馬場秀夫 : 希少転移乳癌の局所及び全身療法に関する国際共同後向きコホート研究 (OLIGO-BC1) . 特別企画 3 がん医療・がん研究の国際展開 , 第 78 回日本癌学会学術総会 , 京都 , 2019.9.26.
- H . 知的財産権の出願・登録状況**
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他